

# キャンパスを歩き、街を訪ねる。

耐震改修が終わりリニューアルオープンした農学生命科学図書館を訪ね、農学部に根強いファンを持つ根津の酒処「大八」の女将さんに往年の思い出を聞く。

## 樹齢200年の化粧直し

東京大学農学生命科学図書館

**昨**年7月、農学生命科学図書館がリニューアルオープンした。耐震補強とともに化粧直した館内を見渡して本間正義館長は「エコ図書館です」という。

「エコ」の理由は、1階各所に使用された木材。農学部附属北海道演習林の樹齢約200年のウダイカンバが使われた。そんなに貴重な木を伐って大丈夫ですかと訊くと、伐採は森林保全のために必要と教えられる。CO<sub>2</sub>削減にも役立つという。

樹齢が進んだ老木は二酸化炭素をあまり吸収しない。そこでこれを除いて若い木を植える。すると若い木が二酸化炭素を吸って伸び、森林も力を取り戻すというわけだ。

「木の命は伐って使うことで完結するのです」と本間教授は話す。通常は木目の良いところだけを使うことが多い。しかし今回のウダイカンバは端材を出さないことを第一に製材され、無駄なく用いられた。そう聞くと、図書館が豪華な施設よりも美しく見えてくるから不思議だ。

じつは改修計画は平成18(2006)年に始まった。予算などの調整で、それから着工まで待つこと2年。実務を担当した瀬川紀代美主査は「そのぶん不便な箇所や問題点を洗い出すことができました」と話す。

甲斐あって、玄関前にはバリアフリーのスロープが設けられ、多目的トイレやエレベーターも設置された。3階にあった旧館長室と事務室は、PC端末室や閲覧室、ゼミナール室に姿を変えた。PC端末室をちょっと覗くと、学生たちが最新システムの前でディスプレイの文字に見入っている。

電子ジャーナルへのアクセス提供も大事な役割だ。海外のライバルと鎬を削る先端分野では、最新論文の掲載誌が海を越えて届けられるのを待つてはられない。農学生命科学図書館は学内の電子化に積極的に取り組んできたので、いまでは発行前の掲載論文でも研究室にいながら読めるようになった。

「そのため来館者の数は減りましたね」と本間館長は打ち明ける。しかし図書館の役割は多様である。「パソコンで情報は入手できて人も人が集う場としての図書館の役割は重要です。これからは検索サポートや情報共有のための場の提供など、コミュニケーションの機能を充実させていく方針です」。



農学生命科学図書館館長  
農業・資源経済学専攻経済学研究室  
本間正義 教授



書架の奥はウダイカンバの腰壁に囲まれた閲覧スペース



農学・生命科学・環境科学分野の海外専門誌所蔵数は国内トップクラス



電子ジャーナル閲覧やレポート作成ができるPC端末室

◎お問い合わせ

東京大学農学生命科学図書館

住所: 〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

電話: 03-5841-5427 FAX: 03-5841-5428

URL: <http://www.lib.a.u-tokyo.ac.jp/lib/>

